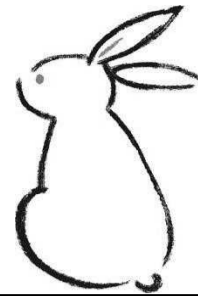




## Shiro-usagi

白兎・素兎



平川塾HP



アメブロ



YouTube

文責：平川 達三

### 「猫」という疑問

今は昔、朝日新聞の「天声人語」で目にした文章で、忘れられない行(くだり)があります。

「世の中に 人の来るこそ うるさけれ とはいふもののお前ではなし」

うちだひゃっけん  
内田百間の短歌です。

「世の中には何がうれしいかという、人が訪れてくることほど嬉しいことはない。しかしながら、あなたのことはありませんよ。」

ということで、かなり毒気があります。

次に、おわたしよくざんじん  
太田蜀山人の狂歌です。



内田百間：文豪・芥川龍之介が敬愛した作家でもある。

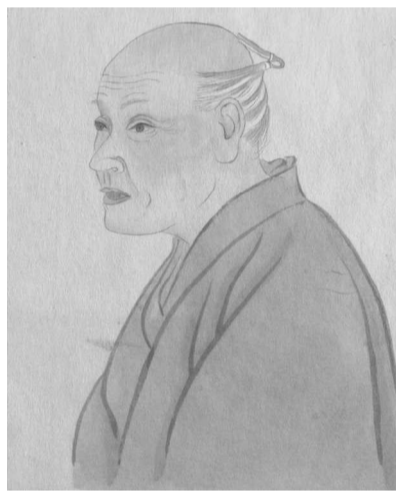
「世の中に 人の来るこそ うるさけれ とはいふもののお前ではなし」

「世の中には何がうるさいかという、人が訪れてくることほどうるさいことはない。しかしながら、あなたのことはありませんよ。」

というのを振(もじ)ったものだ、ということは初めて知りました。

百間は蜀山人の歌を上、自分のものを下に書いて、自宅の呼び鈴の下に張っていたそうです。つまり、自分の書いた短歌の毒気をシャレとして受け取ることのできる人のみお入り下さいという、百間なりのもてなしでした。

うめざきはるお  
梅崎春生という作家を知ったのは、つい



太田蜀山人：天明期を代表する文人・狂歌師であり、御家人。

数日前のこと。

高校生の読解課題の題材文に『桜島』という作品が掲載されています。梅崎春生の作品です。

太平洋戦争の末期、「私」が海軍の暗号員として鹿児島の前線基地桜島に送られた際、突然現れた米軍の戦闘機から見張り役の同僚が機銃掃射を受けて死ぬ場面が題材文として掲載されました。

「とうとう名前も、境遇も、生国も、何も聞かなかった。私にとって、行きずりの男に過ぎないはずである。滅亡の美しさを説いたのも、こゝろ死ななければならぬことを自分に納得させる方法ではなかったのか。」

という強い行くだりがあり、悔しさのあまり、つくつく法師を手で捉え、それを掌てのひらで握りつぶす…

妙にリアルであるはずなのに、どこかシュールさを感じさせる文体に、読んだ瞬間に魅了されてしまいました。

この小説の全体を読みたい。その衝動を抑えきれず、早速 amazon で検

索すると、もちろん『桜島』にヒットしましたが、もうひとつ気になる作品が目飛び込んできました。

『カロヤ』

内田百間の猫に関する作品に「ノラヤ」あるいは、「ノラヤノラヤ」がありますが、『カロヤ』の表紙にも猫の絵がデザインされていて、おきざしろう大佛次郎を筆頭に、猫に魅了される作家がけっこう多いことに気づき、こちらも読んでみたくなりました。



この『カロヤ』の巻末の解説文の中で、梅崎春生が内田百間に心酔していたと

はいうものの、百間の『ノラヤ』と梅崎の『カロヤ』とでは、作品年代が微妙にずれるため、関連性はないとのことおきはらぎらいです(解説は作家・萩原魚雷)。

ところで、

がいじょう「街に 轆ひかれし猫は ぼろ切れかなにかのごとく 平たくなりぬ」

という斎藤茂吉の短歌があります。

梅崎春生の「猫の話」が『カロヤ』の冒頭に現れます。



梅崎春生

中野孝次氏の『ハラスのいた日々』では愛犬が、一方、おきざしろう大佛次郎氏の『猫のいる日々』では、入れ変わりたち変わりしながらも家の中に常に5匹はいたという愛猫が、作家の目を通したどこかシビアそれでいてベースの中に、飼い主としての本音や愛情を交えて豊かに表現されています。

猫や犬ひとつをとっても、作家という人種にかかると、こんなにも多彩に語らせるのかと思わされてきました。



斎藤茂吉：代表作に『死にたまふ母』がある。

さて、梅崎春生氏は「カロ」という猫をどのように表現してくれるのだろうかかと期待を膨らませて読んでみる…。

大通りに面した運送屋の二階を間借りしている一人の若者と一匹の野良猫が住んでいるというたった1行の設定があるだけです。

野良猫は登場して間もなしに車に轆かれて死んでしまいます。

若者はそれを何の感情も抱かぬ様子で、その猫の遺体が大通りを通り過ぎる数多あまたのクルマに次々と轆かれ、そのせいでペしゃんこになり、やがて干からびていき、数多の車のタイヤに少しずつ持って行かれ、やがて消えていく…。

それを何日も何日も、ただひたすら二階の自室から若者は見ているのです。若者はこの作家自身で、轆かれた猫が「カロ」ならば、飼い主のな

んという非情さと、飼い猫にとってこの上ない残酷さを描いたストーリーなのだろう…。

思わず、これ以上読むのをやめてしまおうかという自分の意思とは裏腹に、わが脳と目がどんと文章に吸い寄せられ、わが手にページをめくらせていく…。

この物語の次に現れるのが「A君の手紙」。ここで、前作「猫の話」で車に轆かれた猫は、実は現実のものではなく、実際は初代「カロ」がいて、しかし、どこかで毒団子のようなものを食べさせて死んでしまったという事実を目の当たりにして、およそ自分には猫運がないということが(「A君の手紙」に)書かれています。

そして読み手は、ここを読んだ瞬間に少しは安堵させられるのと同時に、もうひとつの感情を抱かずにはいられなくされるのです。

ああ、まんまと術中にはめられたな。この伏線の張り方の見事さに感服させられずにはいられない。

その後、いろいろとGoogle先生に尋ねてまわり、その結果として、

「街に 轢かれし猫は ぼろ切れかなにかのごとく 平たくなりぬ」

という斎藤茂吉の短歌に巡り会えました。それこそ、太田蜀山人の狂歌を振（もじ）った内田百閒のように、斎藤茂吉の短歌に触発された梅崎春生が、茂吉の猫と飼い猫の「カロ」とを重ね合わせ、エッセイとも小説とも区別がつかないシュールな作品として書き上げたのだとしたら、この作家の感性のすごさに、ぞっとさせられるのです。

現に、梅崎春生の作風は、戦後作家といわれた時代を経て、内田百閒に魅了されてからは、「猫の話」のようなシュールな作品を書くようになったそうです。

ちなみに、内田百閒は文豪・夏目漱石の門下生で、漱石の名作『吾輩は猫である』の続編と称して『贗作吾輩は猫である』を書いています。

なるほど…

「猫」というだけで、こんな線がわが脳内に描けるのか…。

これはおもしろい！

例による「積ん読」にしておくにはもったいなさ過ぎる。

それにしても、猫という生き物がこれほどまでに作家たちを魅了するのはなぜだろう？

この疑問に挑戦してみたくまりました。



大佛次郎



ジュークチャーの小ネタ話

## どこがちやうねん？

中国の代表料理にペキンダックがあります。下処理したアヒルを丸ごと炉で焼く料理です。

「役立たず」「死に体」の政治家を指す政治用語として、あるいは、アメリカでは「役立たず」などと特定の人物を揶揄する慣用表現として「レイムダック（足の悪いアヒル・足の折れたアヒル）」という言葉があります。

また、イソップ童話には『みにくいアヒルの子』がありますよね。

では、ガチョウはどうでしょう？

ちなみに、あるウェブサイト調べてみると、「カモ科の鳥で、ガンを飼いなしたものだ。アヒルより大きく、上くちばしのつけ根にこぶがある。肉・卵は食用。」とあります。

「カモ科」という言葉が出たので、鴨についても合わせて考えてみましょう。

鴨ねぎ、いわゆる、「鴨がねぎをしょってくる」は、「うまいことが重なり、ますます好都合であること」のたとえですし、「カモにされる（カモられる）」となると、「いいように利用される・いいようにやられる」となって、いよいよ、アヒルよりも分が悪くなる。

では、ガチョウはどうなのかというと、料理にも、慣用句としても、物語としてもほとんど登場しません。

スウェーデンの女性作家セルマ・ラーゲルレーヴが執筆した児童文学に『ニルス・ホルガションの少年がトムテ（妖精）によって小人にされ、ガチョウのモルテンやガンの群れと一緒にスウェーデン中を旅するというように、物語の中に登場する場合があります。

更に、カモより大きくハクチョウより小さい一群の総称として「雁がん」があり、これも同じ仲間、『大造爺さんと雁むくはとじゅう』という椋鳩十の名作があります。

このように、アヒルやガチョウの仲間を調べていくと、どうも大きさや羽の色などによって区別されていたり、野生のものが家禽になって呼び名が変わったりと、どこか曖昧で、それでいて複雑なのです。

そこで、写真をご覧に入れますね。



どちらがアヒルでしょう？ あるいは、ガチョウでしょう？

ディズニーのキャラクターにDonald Duckがいますけれど、あの絵から判断するに、くちばしがやや平べったくて広い、上の方の写真がアヒルなのかしら？ というのが、私の判断基準です。ちなみにDonald Duckは、こんな感じです。



あるサイトから見つけた説明が最も分かりやすそうなので、そのまま貼り付けました。が、どちらも似たようなことが書かれているので、結局、ナンカよう分かりません。

<アヒル>

「アヒル」とは、カモ目カモ科マガモ属の「真鴨(まがも)」を原種に、食用、採卵、羽毛採集、愛玩用などを目的として家禽化した鳥類で、漢字では「鶩」や「家鴨」と書きます。

成体で体長50～80cm、体重3～5kg程度、白い体毛に扁平形の黄色のくちばしを持った個体が一般的です。

また、翼は退化して小さくなっており、長距離を飛行することはできなくなっています。

「アヒル」は、ローストダックやターダッキン、北京ダックなど世界中でさまざまな肉料理に用いられるほかに、「アヒル」の卵を原料とするピータンや、「アヒル」の肝臓を肥大させたフォアグラなども食され、フランス料理やイタリア料理ではかかせない食材といえます。

日本料理においても、鴨汁や鴨鍋、鴨蕎麦などの鴨料理で鴨肉の代用として用いられることも多いですが、鴨肉と比較して脂が多いアヒル肉は日本にお

いてはそれほど好まれず、「アヒル」が料理名に用いられることも一般的ではありません。

<ガチョウ>

「ガチョウ」とは、カモ目カモ科ガン亜科の「雁(がん、かり)」を原種に、食用、採卵、羽毛採集、愛玩用などを目的として家禽化した鳥類で、漢字では「鶩鳥」と書きます。

成体で体長50～90cm、体重4～10kg程度、白い体毛に円錐状の黄色のくちばしを持った個体が一般的で、くちばしの形状と、「アヒル」と比較して長い首が外観での見分け方になります。

翼は「アヒル」と同じく退化しており、「アヒル」同様に様々な肉料理に用いられるほか、卵や肝臓をフォアグラとして食材利用されます。

ペットとして飼育する場合は、「ガチョウ」のほうが「アヒル」と比較して人によくなつき、泣き声も大きいことから番犬代わりに飼育されることもあります。

また、布団やダウンジャケット、バドミントンのシャトルなどに利用するために羽毛採取する場合、「アヒル」から採れる「ダックダウン」よりも「ガチョウ」から採れる「グースダウン」のほうが高級品とされることが多いです。

## 玉置神社と プチ不思議

最近、足しげく参詣している神社があります。玉置神社です。足しげくとはいえ、場所が場所だけに。おいそれと行ける神社ではありません。

なぜなら、公共交通機関を使ったとしても、泊まりがけでないといけないからです。

近鉄大和八木駅からJR新宮駅までを結ぶ奈良交通の日本一長い路線バスで有名な八木新宮線があります。停留所数は166。全長169.8kmの行程。所要時間は6時間40分。天候によっては最大遅延時間を含めて9時間。

ところが、山岳道路のいくつかの難所を通るこのバスを使用しても、日本一広い村である十津川村の「十津川温泉」で足止めを余儀なくさせられます。

玉置神社へは「十津川温泉」からの鉄道はおろかバス路線もなく、麓の日高川に架かる橋までさえ相当な距離があるというのに、そこを渡ってからも10km以上の山岳道路を上っていかねばなりません。

確かに、麓の温泉宿の前から玉置神社までの往復をしてくれるコミュニティバスがありますが、予約制です。旅館前から神社まで載せて行ってくれて、参詣時間を考慮して待機し、そのまま参詣客を旅館前まで送ってくれるとはいえ、この1往復のみ。こんな状態なので、日帰りをしようと思うのなら、自家用車でしか交通手段がありません。

おまけに、橋を渡ってからの山岳道路の道幅が狭くて急勾配、しかも整備されているようでされていないし、所々落石のあともあります。細かく砕けているとはいえ、硬くて鋭利な岩のかけらもあり、うっかり踏むとタイヤがパンクしかねません。こんな所なので、JAFをお願いしても来てくれるかどうか。

それに加えてガードレールがない所がけっこうな数で存在し、運転操作を誤ればそのまま谷底行きになりかねないという悪路です（実際に年間で何台かは落っこちている）。

こういうこともあってか、「神様に呼ばれないとたどり着けない神社」とまで言われてるのは無理からぬことでしょう。

架けられている玉置山へ向かう赤い橋の手前にある小さな集落が切れる辺りにこのガソリンスタンドがあるだけですから、あながち間違っはけません。

阪和自動車道をひたすら走り紀伊勝浦から一般道に入ったあと、景勝地の大島を経て飛瀧神社に着いたのが午後12時30分頃。

例によって蒸し暑い中を汗まみれになるのを覚悟していたのですが、気温は28℃なり。ちなみにこの日の大阪市内は36℃。

昨年もほぼ同じ時期に来たのですが、確か35℃だったと記憶しています。とはいっても、暑いものは暑いのです。

思いのほか滝の水量が少ないように感じましたが、相も変わらず凄いパワーです。

100段以上ある石段を下りていきます。

2月に来たときはスイスイと降りることが出来たものの、登るときは最後の方で息切れしたのを覚えています。おまけに翌日は筋肉痛になるして。

さて今回はといたしますと、息切れひとつしませんでした。日頃のウォーキングの効果が出ております。

それにしても、玉置神社に行くとき毎回不思議なことが起こります。不思議とはいえ、オカルト的なこととかスピリ

ただ、福山雅治さんがここで奥様とのご縁を結んでいただいたことがSNSで広まってからはその名が知られることとなり、参詣者は増えているようです。

私は四国八十八か所をチャリンコ巡礼した経験もあって、クルマの運転は大好きなので、国道309号線を通して五條を経て入るこの山岳道路もあまり苦になりません。

大抵は、阪和自動車道を使って和歌山県は那智山の飛瀧神社を参詣した後、すぐさまこの玉置神社に直行し、難所多き山岳道路を通して帰阪する約350kmの行程を1日で強行走破します。

ちょっと季節外れなのですが、夏にいただいたお休みの間に、この年の2回目の参詣をしました。

股関節周りから仙骨周辺にかけてナンともいえない違和感と、なかなか取れないうっすらとした痛みに一抹の不安を拭えなかったのもありますが、今回はもうひとつある目的があるため、ちょっとだけ気合いの入りが違います。

チュアル的なことが特別に起こるわけではないのですが、回数を重ねる度に自分の身体の調子が良くなってきているのを実感させられるというのか、させて下さるといえるのか…。

玉置神社に行かれた方ならお分かり戴けるのですが、鳥居から拝殿までは約1kmほどあり、途中で道が二手に分かれます。ワタシはもっぱら比較的楽ちんな上の道を行きます。

理由は楽ちんなだけではなく、山の神様が二柱いらっしゃる、その依り代にご挨拶を申し上げるためです。

そのうちで、菊理姫（キクリヒメ／ククリヒメ）という、日本書紀に登場する、ちょっと謎多き女神様がいらっしゃいます。

ウィキによりますと、加賀国の白山や全国の白山神社に祀られる白山比咩神（しらやまひめのかみ）と同一神とされる神様らしいです。

聞くところによりますと、普段はおおらかでお優しい神様ですが、怒らせると日本一国くらいなら一撃で滅ぼすことができるくらいのパワーをお持ちの山の神様らしいです。

それはともかく、玉置山という山岳神社にお邪魔をしているので、ご挨拶をしないで通り過ぎるのは非礼ですしね。

というのは、玉置神社（標高1000m）にはもう少し上の方（玉置神社と玉置山の頂上の間くらいの標高のところ）に玉石社という、いわゆるパワースポットがあるので、そこまで登りたかったからです。

とはいっても、パワースポット巡りという趣向はありません。かっこよく言えば、御霊がいらっしゃるらしい玉石社に今まで登っていなかったという負い目のようなものがあったからです。

ちなみにワタシは、神道に心酔なさっているというのか、ワタシからみれば耽溺している——他のことには一切かえりみないで、ひとつのことに夢中になっている——としか見えないのだけれど、そういう人からは「不良の神道」と言われるくらい、何らかの宗教集団に所属して云々という立場からは完全に離れた位置にいて、自分の感性に任せて動いているだけです。

それよりも、登り道はお世辞にも整備されているとはいえ、ある程度の覚悟をしないと登れないというのか、た

その後、平坦な道の終わりにある100余段ほどの比較的整備された階段を降りると、三柱神社という摂社が現れます。

ここにはお狐様（いわゆるお稲荷さんですね）が三柱いらっしゃる、「悪霊退散」ではなくて「悪魔退散」の御利益があるとかで、全国的にも珍しい存在なのだそうです。

更に聞くところによりますと、鬱病で悩まれている方がお詣りすると、その人にとりついている（らしい）「悪魔（悪霊ではなく!）」を祓って下さるとかで、実際にこのお社にたった瞬間に祓われた人が何人もいらっしゃるそうです。

もともとの玉置神社自体が天智天皇の代に、熊野速玉大社・熊野那智大社・熊野本宮大社（Jリーグのトレードマークである八咫鳥で有名ですね）の、いわゆる熊野三社（熊野三権現）を悪魔から守るために創建されたという由緒があります。



どりに着かせてもらえないという厳しさのようなものを感じ、それに気圧されて、なかなか登る気になれなかったのです。

ほぼ毎日足を運ぶ近隣の多米社は別にして（お詣りをするときは毎回真摯な気持ちですが）、大神神社や出雲大神宮や高鴨神社、たとえ近くにある住吉大社にしても、参詣すると決めた日の前々日くらいから、最低の礼儀作法としての心の準備に入ります。

例えば、四つ足のモノは食さないとか、気持ちを整えるとか…。

確かに修行僧でもないし神職を目指すわけでもなく、そのレベルの専門的な知識も経験もないのですけれど、ナンか思いつきとか気まぐれの物見遊山のような気持ちで行くのも「ナンだかな〜」なのです。

玉置神社に行くときは、その寸前でガソリタンクを満タンにすべしというのが、誰が言ったか知らないけれど、お決まりらしい。確かに、周囲には観光の名所とか景勝地もなく、日高川に

玉置神社ももともとは権現さんなので、神仏一体だったそうですが、明治になっておこなわれた廃仏毀釈で、神道を採るか仏道を採るかを決めねばならなくなり、神社の立場を採ったという歴史があります。

ちなみにこの玉置神社ですが、ユネスコの世界遺産に登録されています。元来、神道は日本古来のもので、仏教は朝鮮半島から伝来したといわれる、いわゆる外来宗教なのです。その異なった宗教が「権現」として何の争いやいさかきもなく同居しつづけてきた歴史は世界的にも珍しいらしく、それが世界遺産登録された理由です。

元来の山岳神をお祀りする神社で、大峰山への修行僧が一堂に会し、玉置神社の更に奥にあるという宝冠の森という修行場で修行するために身を寄せる場所でもあるのです（宝冠の森は一般者は原則として立ち入りできません）。



玉置神社の拝殿

さて、この三柱神社奥にあるのが、これから始めてお伺いする玉石社という末社です。

今回のプチ不思議は2つありまして、そのうちのひとつがこれでした。

飛瀧神社からここまでたどり着くのに、何故か道を間違えたりして午後4時までにはたどり着かせてもらえないのに、なんと、この日は午後3時半頃にすんなりとたどり着かせて下さったのです。

YouTubeの動画などを見ると、玉置神社で不思議な体験をなさったお話に巡り会えることもあります。これだけは体験者でしか分からない部分も多くあるので、その内容の真偽は確かめようもないし、真偽の議論自体がナンセンスな気がします。

いつもなら午後4時を過ぎるのに、すんなりと来させてもらえたのです。それでも3時30分。妙な理由付けはしたくないものの、この微妙な30分とは此は如何に？ この30分で玉石社に行くべし、とな？



ちなみに昨年の今頃にも来させて戴いております。到着時刻は午後4時過ぎ。気温は35℃。ジリジリと暑かった記憶が鮮明にあります。

福山雅治さんの一件で有名になったとはいえ、さすがに午後4時を過ぎると参詣者の数も駐車されている車の数もめっきりと少なくなります。別に少なくなるのを狙っているのではなくて、4時までに着かせてもらえないのです。その代わり、いつも主祭神のクニトコタチノミコト様をはじめ、イザナミ様やイザナギ様、天照大神様とはいつもワタシ独りだけの状態で向かい合わせていただけるのです。毎回こんな感じなので、これ自体がプチ不思議なのかも知れません。

まあ、毎回、とにかく暑い時期なので、体力と気力の勝負となります。とこ

ろが、今年とはいうと、鳥居をくぐってビックリです。24℃！ ヒンヤリとした清涼な、それでいてどこか凛とした空気の中にヒグラシの声が響きます。

木々の香や土の香が心地いい。汗だく覚悟なので、神様に失礼なのは重々承知の上で、ノースリーブに短パンというウォーキングスタイルで参道をゆっくりと進みます。もちろん、帽子もしっかりと被っております。

山の神様と菊理姫様にご挨拶を申し上げるころには、これだけ涼しいはずなのにもううっすらと汗をかいております。

その後に現れた階段を下り、鳥居をくぐります。三柱神社の拜殿の前に立ち、ご挨拶を申し上げたら、いよいよ玉石社への急峻な階段を上がります。

ワタシ、膝が弱いのです。特に右。四国チャリンコ巡礼のときに最も危惧したのが右膝のことでした。チャリンコを押して峠道を上るのは、無理して漕いで上がったら右膝の痛みが出るからです。そういう意味では、ちょっとした爆弾です。

ですから峠越えは2つまでに限定し、膝の痛みが出ないようにして巡礼していました。多分、今回も突発的に出ることは予想しながら挑みます。この痛みが出るのが怖いので今まで躊躇していたのですが、今回はなぜか叶いそうな気がしたのです。



なるべく右膝で踏ん張らないようにしていると、当然のことながら左膝に負担がかかります。それだけではなくて、今回もうひとつ抱えている股関節と仙骨周辺の違和感とうっすらとした痛みがここへ来て、のっと顔を出したらもうアウトです。たどり着けないということは、来るなということです。

こういうつづら折りの急峻な道に慣れている人であれば、何を大げさなと言われるでしょう。ここまで身体が弱くなったのはもちろん自己責任ですから、弁解はしません。



それでもどうにかなるもので、たどり着くことが出来ました。

YouTubeに「パワースポット一人旅・玉置神社参拝」というのがありますが、それがお気に入りです。よく見えています。実は、那智山の飛瀧神社もこの動画で存在を知り、見た瞬間に行きたくたまらなくなり、押しかけたのがご縁の始まりです。

玉置神社とのご縁は動画に巡り会うずっと前からですが、玉石社については、この動画を何度も見てイメージをすっかり脳裏に焼きつけ、かなりの覚悟をして来ました。

それにしても涼しいとはいえ、参道ではかかなかた汗を、恐らく全部出してしまったでしょうね。

う～ん…。正直申しますと、何も感じませんでした。ホンマ、霊力なんてみじんもありません。

もっとも、逆に恐ろしさなんかを感じたら、それはそれで恐怖の極みなのです。それがなかったので、良しということなのでしょう。

その後、拜殿まで降りてきて、いつものように拝んでいますと、ご年配の神職さんが戸締まりをなさっていました。もう10回くらいは来ておりますが、戸締まりをなさっているところは初めてお目にかかりました。

せめて戸が閉められてしまう前にと慌ただしく祭神様にご挨拶を申し上げます。

もう何度も来させて戴いているので写真撮影は遠慮し、速やかに退散しようとしたところで、その神職さんにお声をかけられました。

「よろしければ、お写真を撮りましょうか？」

(汗だくで疲れきった姿を撮ってもらってもな～…)

と思ったのですが、その想いとは裏腹にスマホをポケットから取り出した手は神職さんの方へしっかりと伸びおりました。

「ワタシはどこにいればよろしいか？」

「どこでも結構ですよ。」

「でも、神様を真正面にするのはあまりにもおこがましいので、いちばん下の段の端の方へ行きますね。」

「それがよろしいかと…。」

このやり取りから推測されたのは、この神職さんが写真撮影にかなり慣れていらっしやるのと、中には神様を背に正面切っただけの撮影などという、いわゆる神様に失礼な要求に対してはいさめられたりするくらいの厳しさが、言葉の端々に感じられたことです。こういう厳かな空気は、やはりこの場所が修験者の場所としての歴史の証のような気がします。それに、天智天皇が熊野三社を天災と悪霊や悪魔を含めた災厄から守るために創建されたのが起源なので、気難しい雰囲気もまた連綿と続けられてきたことがうかがえます。

その後は5分くらいでしょうか、ゆっくりと歩きながら、世間話程度ですが、お話をさせて戴きました。

「今日はどちらからですか？」

「大阪から那智山の飛瀧神社に参詣し、こちらへ参りました。」

「ほう。すごいですな。」

「途中に完成間近の大きなトンネルが2か所あったのに驚きました。」

「ああ、見られましたか？」

伺いますと、これが開通すると、玉置神社までの道のりがかなり近くなるそうです。

「それと、今のうちに紀勢本線の白浜から新宮まで乗られておくのも良いですよ。」

「??？」

「廃線になるかも知れませんから。」

明治の頃から奈良県は五條から紀伊半島の山中を斜めに(南東向きに)新宮市まで、鉄道敷設の計画が何度も立てられたものの、建設技術の未達や採算性の観点から、話は出ても棚上げにされつづけ、それでも一部分は建設された跡があることなどのお話に発展しました。

それに、那智勝浦新宮道路と紀伊自動車道とが結ばれたら、白浜から新宮までの鉄道はいよいよ廃線へと加速するかもしれません。

ただ、自動車専用道路を通すとすると紀伊半島の外周は難所だらけなので、現代の建築技術なら山間を縫うタイプの道路建設の方が開通時期も早めるこ

# 言葉は生き物 5

高校入試を終え、無事合格した某私立専願の生徒さん。

一応六年一貫校なのですが、高校からはコースを分けられるための内部試験があり、あまりにひどいと追い出されます。

学力もですが、中堅レベルの学校なので、むしろ素行重視でしょう。

塾舎に入り、発した第一声がこれ。

「今日、学校ないんすよ。」

「～なんっすよ＝～なんですよ」という台詞の締め方に最初は違和感がありました。

「恥ずかしいですよ」を「恥ずいっすよ」とか、「いいですよ。」を「いいっすよ。」とか…。

かく言うワタシでも、「～と言うたら（～と言ったら）」を「～って言っちゃ」とか、「こんなこと言うのはナンですが」は「こう言っちゃナンですが」なんていうスラング的な言葉を、会話では使ってますのでね。

それによりますと、山本晋也監督が言い出した流行語で、「（すごすぎて、あるいは奇特で）ついていけない」とか「よくやる」というニュアンスで使った言葉。あるいは、自分の価値観ではとてもはかりかねるといふ一種の感嘆詞だと書かれていました。

「～過ぎる」は「度を超えている」という意味では、「食べ過ぎる（食べ過ぎた）」とか、「それは言い過ぎでしょ？」であれば、書きことばとしても通用しますけれど、「可愛すぎる」ってのは、どうなのでしょうね。

それで思い出しましたが、「キモ可愛い」とか「かっこ可愛い」とかも妙な複合語です。

「一見気持ち悪いけれど、よくよく見たらどことなく可愛い」

「まだ幼くて可愛いけれど、なんかカッコイイ」

という意味になるのかな…。

「キモい」「キショい」は平成になってから出て来た言葉のように記憶しています。

あとは、ある生徒さんが、お父様の体型を表現するとき使っていた言葉がありましたね。

情報というのは妙なところがあるので、このニュースレターを編集している間に、YouTube をまさぐっていると、タイムリーな動画が見つかりました。ただし、この情報も、あくまでもこれをアップロードした人の個人的な感覚がつかまっているので、参考程度というお立場でご覧下さい。

というのは、この自動車道路を新宮から帰阪時に利用した経験則ですが、夕刻（特に午後5時頃）に大渋滞を起こす所が散在していて、この動画のようにすんなりと進める可能性の方が低いようにも思えます。

とはいうものの、国道42号線から開ける海岸線の景色がキレイなので、その部分だけでも楽しめます。「どんなんやるな？」と思われる方はご覧下さい。

”JR「特急くろしお」のライバル 紀州半島の高速道路をドライブ！ 「くろしお」号・JRきのくに線の利用者減は、高速道路に原因が？”を YouTube で見る



いちばん最高って、「最も高い」のだから「いちばん高い」と同意なので、作文のチェック時の的にされます。

「まず初めに」だって、「まず」自体に「何をさておき最初に」という意味があるのでは？

「あとで後悔するなよ」って後で悔やむから「後悔」なのです。でも「あとで」は「そのときになって」という意味であれば、間違っていないのでしょうか？

さすがに「頭痛が痛い」は言わないかも知れませんが、それ以外は日常会話ではたびたび耳にしますし、そもそも会話自体は成り立っています。

「これちゃうちゃうとちゃうねん。」というのは、まだ初々しかった頃のトミーズという漫才コンビのネタですが、この頃、よくテレビとか雑誌で躍っていた言葉が、これです。

「ほとんど病気」

イマドキだったら、「～過ぎる」とか「神対応」とかでしょいか。

「ほとんど病気」って、どういう意味なん？ 改めてそう思ったので、Google 先生に尋ねてみる。

さすがです。すぐに提示して下さいました。

お休みの期間の最終日である日曜日に例によってスーパー銭湯へ行ったのです。こんな状態でも「GO TO スーパー銭湯」は外せません。

かなり癒えていたとはいえ、翌日の業務再開の日にはどうなることやら。ここまで来たら賭けですね、ホンマに。

ここからがプチ不思議。翌日、鍼灸師先生の施術を何度受けても消えなかったのに、それらの全てが消えておりました。股関節と仙骨周辺の変な違和感も無し。この「痛みの全てが消える」という現象は、3年ほど前にも経験しています。その代わり、それが起こる前に強烈な痛みを発症します。ちなみに、3年前は数年来のぎっくり腰を発症し、おそらく歩けなくなると覚悟したくらいでいす。幸い日頃お世話になっている鍼灸師先生の往診で事なきを得ましたが、塾屋稼業34年間で緊急で業務をお休みしたのは初めてでした。ただ、その1回によって、糖尿病予備軍の入り口に立っていたかも知れない症状も往年の腰の違和感も、全部持っていってくれました。これぞ神業の不思議？ 人体の不思議？

どちらにせよ、こういうものは消えてくれるに限ります。

せえへんで？」

というようなことを言われたら、ワタシは「そうなん？」と返すだけです。だって、言葉尻をつかまえて、

「その『フツー』は、あなた個人の感覚でしょ？ それこそ、あなたの常識が世間の非常識やったら、どないするん？」

なんてなことを言ったら、あとあと厄介ですしね…。

それはそれとして…。

「ちょっと熱あるねん。しんどい。」  
「お昼食べよか？」  
（ちゃんと朝食べたか？）  
「テレビを見る」  
「あとで後悔するなよ」  
「いちばん最高だったこと」  
「まず初めに」  
「頭痛が痛い」

熱はもともとあります（「ことば」のことについて書かれた文章で、真っ先に登場する「ネタ」ですが、正しくは「平熱よりちょっと高い」でしょうか。

お昼（朝）なんか食べられません。お昼（朝）ご飯は食べられるけど。

テレビ自体を見ても何にもなりません。テレビの番組を見るのです。

とが出来るとはいえ、これは個人的な好みですけど、国道42号線を進むルートは、太平洋の景色や串本の景勝地を見せてくれたりするので、速く移動できるけれど少々退屈な高速道路とは異なった醍醐味があるように思えます。

神職さんと親しくお話をするなんて滅多にない機会だったので、新鮮でしたね。

「ようお詣りでした。」

ご挨拶ののち、参道を経て駐車場に戻ると、クルマは数台しかありませんでした。

さあ、ここからの帰路がまた大変なのです。3分の1くらいは素晴らしい道になっているとはいえ、奈良県の五條まではまだ離合困難な難所が続きます。が、何故か4時間以上かかるはずが3時間少しで帰阪できたのです。これもプチ不思議だったのですが、それ以上の不思議がワタシの身体に起こりました。

翌日は全身の筋肉痛です。それもかなり激しいので起き上がるのも一苦勞。でもこれは予想通り。背中一面の強張り、股関節周辺とか仙骨周辺とか、そんな部分的な痛みではなくて上半身全部でした。

なので、それこそ「大人のオレが言っちゃいけないこと言っちゃうけど…♪」という『Habbit』の歌詞やないですが、とはいえ、この歌詞の続きにある「ぶっちゃけ説教って快樂」という感覚はありません。

それで、思わず古びたツッコミを入れたワタシ。

「えっ？ 学校はあるよ。」  
「いや、何言うてはるんっすか？」  
「いやだから、学校自体はあるやん。授業がないだけやん？」

う～ん、イマドキの子にはオジサンのツッコミにも解説があるのか…。

ジェネレーションギャップ、ここにもあり。

そういえば、日常会話の中にも本来なら違和感を抱かなアカンのにフツーに使って会話がなり立っている表現ってどんなのがあるかなと、ブログネタの「脳内未言語化マリモ」をまさぐってみると、結構な数であるのです。まあ、この「フツー」も、

「何がフツーやねん？」  
「どこまでがフツーで、どっからがフツーとちゃうねん？」

と言われれば、答えようがありません。

「あんたなぁ、フツーはそんな言い方

# 気づけばここまで来たんだね

京都は永観堂（禅林寺）に阿弥陀如来立像があります。「見返り阿弥陀」という愛称で親しまれています。



阿弥陀如来は、天上界で最も位の高い存在です。ヒンドゥー教でいえばブラフマン、キリスト教でいえばキリスト、ムスリムだとアッラーにあたります。

「見返り」という名の付くもので代表的な作品といえば、菱川師宣の「見返り美人図」がありますが、同じ「見返り」でも、如来像とは趣旨が違うものの、着物姿の美人がふと振り返った際

の色気を見事に捉えたもので、これはこれで魅力があります。

いつの日かの見返り阿弥陀像のブログ記事で、後についてくる人々を

「大丈夫か？ ちゃんとして来られているか？」

という慈悲深いお顔で見守られているように感じると書きましたが、もうひとつ意味があるのではと感じました。



菱川師宣「見返り美人図」

その積み重ねの足跡をそっと見返って微笑む。

「よく頑張ったね。」

そういう言葉さえ無用になる満々とたたえる「見返り阿弥陀如来像」の微笑み。静かですが、何よりも力強い。

## 〈編集後記〉

拙著『塾ごっこ』をお読みいただけたでしょうか。最近でこそアメブロに記事をアップする回数がめっきりと少なくなっています。ネタ切れもあるのですが、自分が書きたいことと伝わることは違うということ、1冊の本を作り上げるという過程で気づいたからです。学生時代、特に小中学生のときに何を書いて良いのか悩むあなたに、国語の先生から「思ったことを書けばいいよ」という指導を授けられた経験が少なからずあると思うのです。書くこと自体に苦みなさっている人には申し分けないけれど、書くことはそんなに難しいことではないのです。大切なのは書くというよりも、書くことで伝えるということだと思えるのです。卑近な例を挙げると、読み手をどのように楽しませるか、あるいは、「そうそう！」と相づちを打たせるか、それとも逆に、「いや、それは違うやろ？」と思わずつつこませるか…。読み手をあの手この手でいつの間にか「書き手ワールド」に引き込んでいくというものです。そういう意味で、自分の作品を世に残し続けている作家の感性は本当に凄いと唸らされるのです。



Amazonサイト

いわゆる「イケメン（いけてる顔面が語源）」という物理的な意味ではなくて、人格的なことを指す語として使われているようです。

そういう意味で、面白い言葉やなど感じたのは、「顔面偏差値」です。

中学生君や高校生君に尋ねると、男女の区別なく使うらしいです。つまり、イケメンとか美人（可愛い）に対して、

「あの人（あの子）、顔面偏差値高いよね？」

というふうに使らしいです。

では、筋骨隆々（ムキムキ）の人だったら「筋肉偏差値の高い人」になるのかしら？ あるいは、スポーツのできる人に対しては、「スポーツ偏差値が高い人」という表現が成り立ちそうです。

こどばの意味の正誤うんぬん使い方の是非うんぬんも大切ですが、日常の中で生まれては時として消えていく俗語をみるにつけ、言葉はまさに生き物なふやなことを実感させられます。

「何を甘いこと言っているんだ、そのくらいで怖じ気づくのであれば、初めっからここへ来るなよ。」

このように、理想論や精神論よりも、まず現実を見せてやるのが大事だと言う指導者もいることでしょう。

結論から申しますと、ワタシにとってはアカンやつです。親父様、実は、ワタシのアカンやつのタイプでした。

幼い頃のワタシは病気がちだったので、体を丈夫にさせようという厚い親心から、親父様がいきなり2kgと4kgの鉄製アレーを買って来たのです。それもど丁寧な2つずつ。

それを床の上にドンと置いて、「明日からやれ」と言う。

ワタシ、当時小学4年生。4年生の少年に「やれ」と言われても、何をどうするのか皆目見当もつきません。どこまで不器用やねん、という親父様。

ただでさえ頑固で、天上天下唯我独尊に近い考え方をち、およそ一般的な小学4年生からすれば10本くらい線が外れていた子が、「はい、そうですか」とするわけがない。

それから50年以上も経て今では2kg・4kg・5kg・6kgと増えて、あろうことか13kgまで対応できるような可変式のダンベルまで買い込むなんざ、当時のワタシからは天と地がひっくり返っ

「デブい」

「デブ」の形容詞化ですね。ウィキ先生によりますと、江戸時代から「肥満したさま」を表す「でっくり・でっぷり」という副詞が使われてたそうです。

また、「しまりなく肥満したさま」を表す「でぶでぶ」という副詞もあり、オノマトペとしての「でぶでぶ」が名詞化されたというのが一般的な「デブ」の語源らしいです。

「恥ずかしい→ハズい／はずっ！」  
「気持ち悪い→キモい／キモッ！」  
「気色悪い→キショい／キショっ！」（「ッ」がはいって「キショい」）  
「うざったい→ウザい／ウザッ！」



ちなみに「うざったい」とか「むかつく」というのを、清少納言さんは「にくし」と言うてはります。

「神対応」「神レベル」はSNS上で相手の対応の良さを手短かにほめるときに使ったことが始まりなのだそうです。

この同種として、女性に使っても褒め言葉になるらしい「男前」もありますね。これは、元来の二枚目の男性、

私には、生徒さんに必要以上のテキストは持たせないというコンセプトがあります。ポリシーというような仰々しいレベルではないのです…。

「あなたね、これだけのモノ、全部出れますか？」

というくらい、他塾から私の塾に移られてきた生徒さんの中には、1科目につき3冊も4冊も持たされている場合があります。

塾の授業で使うものと、復習で使うものとに分けられているらしいのですが、そうおっしゃる割に、分量が多すぎるからか、どれもが中途半端な状態で放置されているようにしか思えないのですね。

必要なものは必要です。でも必要悪になれば何もならない。

若い頃に指導の上であることに悩んだ時期があります。

入門者に対して、これからしなければいけないことを全部見せるのは、是か非かというものです。初めての人、学力がまだまだおぼつかない人が、

「成績を上げるために、これとあれと、あ、そうそう、これもこれも全部やらくちゃね。」

と、目の前にドサッと積み上げられると、どのように思うでしょうか。